

平成29年度 第3回釧路市地域公共交通活性化協議会 議事録要旨

日 時	平成30年2月27日（火）13:30～15:00
場 所	アクア・ベール 2階 高砂の間
出席委員	23名（うち代理出席5名） 欠席9名
事務局	3名
オブザーバー	2名（うち代理出席2名） 欠席1名

1 開 会

（会長）

- ・ 議事に入る前に、新委員の紹介について、事務局よりお願いします。

（事務局）

- ・ 釧路地区ハイヤー協会の浅利委員おかれまして、ハイヤー協会の専務理事を退任されたことに伴い、本年2月8日より、新しく事務局長に就任された石田静様を新委員に委嘱させていただきます。
なお、石田様は本日所要により欠席されておりますので、後日、事務局より委嘱状を交付させていただく予定です。

2 議 事

（1）地域公共交通再編実施計画の策定に関する基礎調査報告書について

- ・ 事務局より説明 資料1

（事務局）

- ・ 専門部会における議論内容について、部会長である岸先生が本日欠席ですので、平岡委員より報告をお願いいたします。

（平岡委員（北海道教育大学釧路校））

- ・ 専門部会では、今回の再編案について基本的に賛同を得ているところですが、乗継ぐこととなった利用者にとって、今までより運賃額やその支払方法等において不利、不便であってはならないということが、原則として全員一致しているところですが、わかりにくい料金体系等になるのはもちろん、乗継ぎにより目的地まで2回支払いの手間が発生することも課題として考えられます。
- ・ 再編実施計画は重要ですが、乗換拠点整備等ハード整備に合わせた両輪の施策として、

運賃支払いの簡便さ、路線のわかりやすさ、乗継ぎしやすいダイヤ編成やバスロケーションシステムによる情報提供など、利用促進施策等ソフト施策の部分も重要であると思います。

- ・乗換拠点は、現段階では一定規模の商業施設を中心として検討されておりますが、他にも既存公共施設等を乗換拠点として検討するなど、乗換拠点が市民生活の様々なニーズに対応する都市機能上の拠点にもなり得るといった視点も重要だとの指摘もありました。
- ・バス路線網の再編は、まちづくりの視点を持って包括的に検討されるべきであり、そうすることによって、例えば地域振興の点で地元商店街等がバス利用の促進・活性化に対し連携していくことなどもあるため、今後も様々な主体間による議論が継続的になされるべきものと考えます。

(名塚会長)

- ・ただ今の説明につきまして、皆様からご質問等ありますでしょうか。

(宮下委員 (釧路公立大学))

- ・2点お聞きします。1点は、阿寒バス、くしろバス両社において、路線の新設、維持、減便・廃止はどのような考え方によってなされ、路線の位置付けや具体的な利用者像をどのように想定しているのでしょうか。もう1点は、今回の市の提示する再編案に対して、現実のドライバー数や車両数をもって、どのような考え方ですり合わせていくのでしょうか。

(須田委員 (阿寒バス))

- ・当社は1市8町1村をカバーしています。今回の再編案に関しては、当社の市内路線網に大きな影響はないと思っておりますが、基本的にはニュータウンや昭和北部の住居系集積のあるところを主として維持していくとともに、ほかの町村においても新興商業集積等の開発行為がある場合には、積極的に顧客等の輸送を担うという方針を持っています。

(畑毛委員 (くしろバス))

- ・くしろバスは市内全域をカバーしています。戦後のモータリゼーションの進展によって事業全体として減便・廃止を重ねざるを得ず、公的補助をいただいても現在の運転手・車両数を維持するのが精一杯です。
- ・一番の問題は、全体として利用者が減少しているにも関わらず、通勤・通学による朝夕のピークに合わせたダイヤ維持のための運転手・車両数を一定数確保しなければならず、これが運行事業全体の効率化の足かせになっています。

- ・できる範囲で日中あるいは夜間の便を減便して対応していますが、車両を減らすことが経営上一番効率化できる要素であります。今回の再編案には期待していますが、現実化について懸念もあります。

(事務局)

- ・今回の再編案においてどのような利用者がターゲットとなるかということですが、今回の再編案では、全体52路線中、一定の条件を設けて、例えば採算性の高い路線だとかスクールバス路線等は乗換え運行にしないようにしています。
- ・再編対象としている18路線において、畑毛委員からご指摘のあった日中・夜間利用の乗換え運行による効率化について、これからもバス事業者様とやり取りしながら慎重に進めたいと考えています。
- ・これまでもくしろバス様、阿寒バス様と釧路運輸支局様も入っていただいて、3回ほど実務的な協議を持たせていただき、その上に立って専門部会、協議会とご議論いただく形をとっており、今後も継続してこのような綿密な協議体制を維持していきたいと考えております。

(宮下委員 (釧路公立大学))

- ・既に通勤客が自家用車からバスに乗換えてうまくいっている路線もあります。今回の再編案では通勤・通学の朝夕ピークにしっかりと対応しつつ、効率化できるような計画としてほしいと思います。

(名塚会長)

- ・一点確認ですが、今回の再編案の検討では、ケース1から3として、主に幹線の導入等で路線を集約し、総実車走行距離を短縮・効率化することにより郊外部の便数の増を図っていくという説明でよろしいですか。

(事務局)

- ・本基礎調査の再編案では、実際の車両数や運転者数を加味していないため、現段階では路線の集約による総実車走行距離の短縮により生み出された資源を原資として、郊外部の増便など利便性向上や路線収支の効率化を検討しています。
- ・次年度以降の再編実施計画策定におきましては、バス事業者様と緊密に連携しながら現実的な計画としていきたいと考えております。

(名塚会長)

- ・それでは本日ご協議いただいた「釧路市地域公共交通再編実施計画の策定に関する基礎調査業務報告書」については原案通りご承認いただくということによろしいですか。

～異議なし～

(2) 平成30年度事業計画(案)について

・事務局より説明 資料2

～質疑・異議なし～

(3) 平成30年度収支予算(案)について

・事務局より説明 資料3

～質疑・異議なし～

(4) 高齢者向けに求められる公共交通の調査について(主催:北海道運輸局)

・山崎委員(釧路運輸支局)より説明

4. その他

(名塚会長)

- ・議事は以上となりますが、その他としまして、事務局より連絡があるようですので、お願いします。

(事務局)

- ・今後の予定についてご連絡いたします。
新年度の第1回目の協議会につきましては、6月の開催を予定しております。
近くなりましたらご案内いたしますので、よろしく願いいたします。
来年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。

5. 閉会